

第24回肝臓病教室

このたび、第24回肝臓病教室が令和元年11月13日に開催されました。今回、16名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「肝がん」です。

まず、森医師より「肝がんの最新治療」について講演がされました。肝がんの治療には次のような特徴があります。①肝臓を全部切除しても取り除くことはできない ②ほとんどの場合が肝硬変を背景として発生しているため肝がん進展度と肝の予備能のバランスを考えて治療法を選択しなければならない ③肝がんは肝内転移、多中心性発癌を持つ。

肝がんの治療法には肝切除、ラジオ波焼灼療法(RFA) 肝動脈化学塞栓療法(TACE)があります。適切な治療法を知るためにも肝臓専門医を受診し、定期的な検査をふまえ治療の最新情報を聞くことが大切です。

続いて、北田薬剤師より「知っておきたいレンビマ（レンバチニブ）について」の講演がなされました。

切除不能な肝細胞癌の治療薬として、日本で10年ぶりの治療選択として追加されたものにレンビマがあります。これにより血管新生を阻害し、癌細胞の増殖を抑えます。副作用は投与一ヶ月後に高血圧や手足症候群、あるいは下痢、倦怠感、食欲低下、肝性脳症、肝機能障害があります。副作用を把握し、気がかりなことがあれば主治医に相談しながら治療をすすめる必要があります。

続いて、北川放射線技師より「肝臓—CT 検査について—」に講演がなされました。肝がんを早期発見するための検査に造影 CT 検査があります。造影剤を使うことにより、体の中の血管、臓器などがわかりやすくなります。造影剤を体に注入すると熱さを感じます。すぐに治まるので心配ありません。血管外に漏れた場合、腫れて痛むこともありますが、少量であれば自然に吸収されます。副作用として、吐き気、かゆみ、発疹、呼吸困難、血圧低下、意識障害などがありますが、当院では副作用について万全な体制を整えて検査を行っていますと説明されました。

続いて、西看護師より「これで肝ペキ！ 抗がん剤内服治療のケア」について講演がされました。内服治療のレンビマの副作用として手足症候群があり、そのケアに保清があります。弱酸性の洗剤の泡タイプで洗浄しましょう。洗いすぎには注意が必要です。また入浴後10分以内に保湿剤を塗ると効果的です。保湿剤に尿素を含むものがあります。それをひび割れに塗ると刺激が強くなりしめることがあるので注意しましょう。ケアの三つ目に保護があります。木綿の手袋や靴下を着用しましょう。

最後に、田中管理栄養士より「化学療法中の食事について」について講演がなされました。治療中の副作用の1つとして食欲不振があります。そのような時は酸味を取り入れたり、彩りや見た目に配慮することで食事意欲を向上していくことが大切になります。食欲が出て症状が落ち着いてから栄養面を考えることにしましょう。

当院では、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。

